感染防止策チェックリスト

イベント開催時には、下記① \sim 8の項目(イベント開催時の必要な感染防止策)を満たすことが必要です。

①飛沫の抑着の抑制用される。	Ø	【大声なしの場合】 飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク(不織布マスクを推奨)の正しい着用(※1)や大声(※2)を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる ※1 マスクの着用については、厚生労働省HP「マスクの着用について」を参照。なお、屋外において、他者と距離がとれない場合であっても会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は必要ないことに留意してください。
		※2 大声の定義を「観客等が、①通常よりも大きな声量で、②反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に実施しないイベントは「大声あり」に該当します。そのほかの留意点は「記載上の留意事項」をご確認ください。
		「大声なし」に該当する場合は、「大声なし」と判断した理由や、大声を 伴わないことを担保する具体的な対策を、以下に記載してください
		・声援の抑制について、公式サイト及び劇場でお客様に周知を行う
		【大声ありの場合】 飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク(不織布マスクを推奨)の正しい着用や大声を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる
②手洗、手指 ・施設消毒の 徹底	Ø	こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す(会場出入口等へのアルコール等の 手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施)
	Ø	主催者側による施設内(出入口、トイレ、共用部等)の定期的かつこまめ な消毒の実施
③換気の徹底	Ø	機械換気による常時換気又は窓開け換気 (例) 「1時間に2回以上、1回に5分間以上」、「室温が下がらない範囲で常時窓開け」 等 ※屋外開催は上記と同程度の換気効果と想定、必要に応じて湿度40%以上を目安に加湿も検討
④来場者間の 密集回避	\square	入退場時の密集を回避するための措置(入場ゲートの増設や時間差入退場 等)の実施
	Ø	休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築を行う(入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はキャパシティに応じて収容人数を制限する等、最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔を確保)
	Ø	大声を伴わない場合には、人と人とが触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離を確保する(大声ありの場合、座席間は1席(立席の場合できるだけ2m、最低1m)空ける)

⑤飲食の制限		飲食時における感染防止策(飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた 十分な対策)を徹底する
		飲食中以外のマスクの着用を推奨する
		長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染リスクを高めるため、可能 な限り、飲食専用エリア以外 (例:観客席等) は自粛する
		□ 飲食時の会話を控えることを呼び掛ける
		□ マスクを外す時間を短くするため、食事時間はなるべく短時間とする ことを呼び掛ける
		千葉県の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断(提供する場合には飲酒 に伴う大声等を防ぐ対策を検討。)をする
	Ŋ	飲食の提供がないため「⑤飲食の制限」に該当しない
⑥出演(展) 者等の感染対 策	Ŋ	有症状者(発熱又は風邪等の症状を呈する者)は出演(展)・練習を控えるなど日常から出演(展)者やスタッフ等の健康管理を徹底する
	Ø	練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演(展)者やスタッフ 等の関係者間での感染リスクに対処する
	Ŋ	出演(展)者やスタッフ等と観客(参加者)がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる(誘導スタッフ等必要な場合を除く。)
⑦参加者(観客)の把握・ 管理等	Ŋ	チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ等を活用して参加者を把 握する
	Ŋ	入場時の検温、有症状 (発熱又は風邪等の症状) 等を理由に入場できなかった際の払い戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止する
	Ŋ	時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注 意喚起
⑧業種別ガイ ドラインの遵 守	Ŋ	①から⑦に加え、千葉県からの要請や各業界が定める業種別ガイドライン (該当する業種において策定されている場合)を遵守する
	業種別 (該当]ガイドラインの名称を以下に記載 する業種において策定されていない場合は「なし」と記載)
		「劇場・音楽堂等における新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」